



令和3年度 2学期始業式 校長式辞 令和3年8月26日(木)

『一致団結』協力して、“ともに”輝く子

82日間の2学期が始まりました。今年の夏休みは、新型コロナウイルスと大雨によるニュースが多かったですね。そのような中、こうして、無事に2学期の始業式ができることを、とてもうれしく思います。

また、夏休みには、1年間延期になった「東京オリンピック」も開催されました。オリンピックでは、日本も、金メダル27個、銀メダル14個、銅メダル17個、合計58個というたくさんのメダリストが誕生しました。プレーも素晴らしかったですが、どのアスリートも、「感謝」という言葉を言っていたことがとても心に残っています。閉会式でも、最後に「ARIGATO（ありがとう）」の文字が映し出され、世界中の人の心が「感謝」の気持ちで“ともに”繋がった気がしました。

24日からは、パラリンピックも始まりましたね。オリンピックと同じように、日本はもちろん、世界中の選手を応援しましょう。そして、たくさんの感動と、勇気・元気を感じていきましょう。

さて、2学期になりました。2学期には、運動会などの大きな行事が予定されています。コロナ禍ですが、一人一人が「一致団結」して協力することが大切なことは変わりません。「一致団結」して協力するって、どういうことでしょうか。「ナイル川を渡るアリ」のお話を聴いてください。

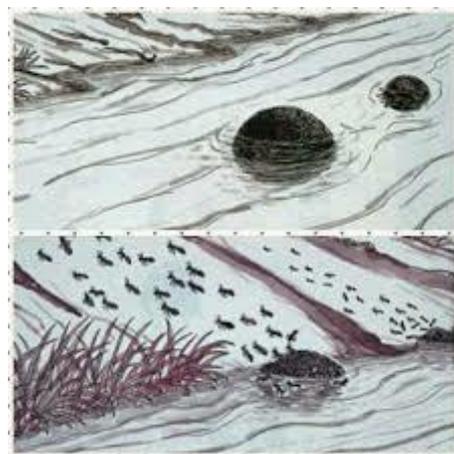
アフリカのエジプトにナイル川という大きな川があります。川幅は、狭いところで500m、広いところでは50~60kmもあります。日本にいるアリと同じで、ナイル川のアリもそんなに長い距離を泳ぐことはできません。1匹では泳げないはずのアリが、一度になんと3000匹もこの川を渡るのだそうです。では、どうやって川を渡るのでしょうか。



まず、3000匹のアリたちは、互いが離れないようにしっかりとつながり、サッカーボールほどの大きさのかたまりを作って、ナイル川の流れに乗って浮かび上がります。その時、3分の1は水面から出ていますが、残りは水の中です。そのまま流れていては水の中の3分の2、つまり2000匹はおぼれて死んでしまいます。そこで、川に流されていく途中で、水の上のアリは次第に水の中に入り、その代わりに、水の中にいたアリが水の上に浮かび上がり、次々と入れ替わっていくのです。

しばらくの間は水の中にも大丈夫ですから、3000匹のアリたちは、水の中での苦しい支え役を交替しながら、つながりを崩さず、ほとんど犠牲を出すことなく移動していくのです。途中でどこかの岸に流れつき、そこでようやくアリのボールはくずれて、みんな歩き始めます。

もし、力の強いアリが、苦しいことはやりたくないと言って、水面の上を独り占めしていたらどうなるでしょうか。水の中で支えていたアリは次から次におぼれてしまいます。ついには強いアリも含めて全部が死んでしまうでしょう。わがままを言って全滅してしまうのか、苦しさを分かち合いながらみんなで「協力」して生き抜いていくのか、ナイル川に住むアリは、生まれながらにその知恵を持っているのです。南っ子も、よい学級をつくらうと学級目標を立てて、みんなで取り組んでいますね。今日紹介したアリのお話の中に、よい学級をつく



ていくためのヒントがあると思うのです。ナイル川を渡るアリの知恵に学び、コロナ禍にあっても、みんなで一致団結、協力して、“ともに”輝いていきましょう。

今は、緊急事態宣言も出されているので、暑さ対策をきちんと行いながら「with コロナ」で学校生活を送っていきましょう。「自分の命も、相手の命も、みんなで守る」ことは、とても大切なことです。

2学期も、南っ子が、明るく、元気に成長するよう願っています。

◇◆◇ 南っ子へのメッセージ ◇◆◇

南っ子の命を守りたい。そして、学校生活を守りたい。

感染の南っ子が増えたら、楽しみにしている昼休みや行事がなくなったり、行事ができたとしても、参加できなくなる友だちが出てきたりします。ふつうに学校生活を送ることもできなくなります。

命があって、生きていて、ふつうに生活できることって、本当に幸せですね。南っ子“みんなで”生活できる時間を、“みんなの手で”守っていこう。

医療従事者のみなさんも、がんばっています。家族も、地域のみなさんも、友だちも、先生方も、みんなで支え合っていることに、「ありがとう。」と感謝したいですね。南っ子の命を守ることは、それ以外の人の命も守ることになります。

そのために、「今」みんなの“協力”が必要なのです。

